

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 瑞浪高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和5年10月31日(火) 13:30~15:30
- 3 開催場所 瑞浪高等学校 会議室
- 4 参加者

会長	山田 幸男	瑞浪市教育委員会 前教育長	
副会長	正村 和英	瑞浪市 総務部長	
委員	景山 助夫	瑞浪商工会議所 会頭	
	三輪田幸泰	瑞浪市議会 議員	
	薄井 義彦	瑞浪中学校 校長	
	栗岡 洋美	中京学院大学短期大学部 准教授	
	田中真奈美	瑞浪幼稚園 園長	
	玉川 幸枝	合同会社プロトビ 代表	
	熊本早由里	瑞浪高等学校 育友会長	
オブザーバー			
	小川 祐輝	岐阜県議会 議員	(欠席)
	水野 光二	瑞浪市 市長	(欠席)
	石田 智久	瑞浪高等学校 同窓会長	
学校側			
	伊左治錦司	校長	
	工藤 正紀	教頭	
	相賀 栄寿	事務長	
	今井 典彦	教務部長(教務主任)	
	丸谷 利幸	進路支援部長(進路指導主事)	
	横井 雅代	生徒支援部長(生徒指導主事)	
	齋木 一美	生活産業部長(生活デザイン科主任)	
	林 尚志	県立高校地域連携コーディネーター	

### 5 会議の概要(協議事項)

#### (1) 学校評価アンケートについて

意見1: 昨年と比べて多くの項目で生徒の肯定的な意見が多くなった。

保護者の「わからない」という意見が多いのはなぜか。

⇒ 学校評価アンケートの質問項に対して、保護者が知る機会が少ないからではないか。また、HPや通信等の手段を通して学校の指導方針や活動内容を知ってもらう努力が必要である。

意見2：「入学して良かった」という質問に対して92%の生徒が肯定的な回答である。この点は評価できる。最近の傾向としては自己表現の苦手な生徒が多いように思う。もっと地域の行事に積極的に参加をしてコミュニケーション能力を高めてほしい。

意見3：「わからない」という保護者の回答が多いということは、情報が保護者まで届いていないからである。私は地域探究にも関わってきたが、地域探究の意義や活動内容が保護者に十分伝わっていないことは残念である。

意見4：学校がもっと地域と積極的に関わりを持てる機会が多くなると良い。

意見5：生徒への質問項目「学校はいじめを許さず、厳しく対応している。」という項目について、6%の生徒が否定的な回答をしている。数値は高くないが、この状況について学校側はどう考えているのか。

⇒現在のいじめ防止対策推進法の観点から、法律上は「本人がいじめと感じたり、嫌だと思った」場合にはいじめだと認定していく必要があるため、学校としても丁寧に対応しているが、数値的に「0%」にすることは難しいのが現状である。

また、2ヶ月に1度の割合で「いじめに関するアンケート」を実施しているが、最新のアンケート結果ではいじめの認知は0件であった。

意見6：アンケート結果を科別で比べてみると普通科で肯定的な回答が多いのに対し、生活デザイン科では普通科よりも全体的に肯定的な回答がやや少ない点が気になった。自己肯定感の低下につながらないのか心配な面がある。

⇒この点は学校側としても注目すべき点だと感じている。自信のない生徒もいるので、確かな知識や技術を身につけさせることで、自信を持たせると共に自己有用感を高める支援を丁寧に行っていきたい。

## (2) 本校生徒代表者（6名）との懇談について

学校運営協議会の委員を3つのグループに分け、本校の生徒2名と30分間の懇談を行った。

### 第1グループ

委員「瑞浪高校に入って良かったのか？」

⇒生徒「はい、瑞浪高校に入って良かったです。他校にはない専門的な学習ができました。また、専門的な資格も取得することができました。」

委員「卒業後の進路についてどのように考えているのか？」

⇒生徒「私は障がいのある園児や児童を支援する仕事に就きたいと考えており、進学をします。」

生徒「私は地元に残って、就職します。具体的にはJAに就職します。」

### 第2グループ

委員「若い人たちがこの瑞浪市に残って欲しいと考えている。あなた方は将来、瑞浪市に就職する予定はありますか？」

⇒生徒「やりたいことがまだ明確に決まっていないので、どんな仕事をするのか、どこへ勤めるのかは大学へ進学してから具体的に決めていきたい。」

「私は2年生ですが、現時点である程度方向性は決まっている。地元への就職についても考えている。」

委員「自分たちが将来やりたいことを考え出したのはいつ頃ですか？」  
⇒生徒「中学時代はあまり考えていませんでしたが、高校生になってからはいろいろと考える機会が増えてきた。」  
委員「若い人がこの瑞浪市に残ってくださるような魅力ある素敵な町にしたいですね。」

### 第3グループ

委員「瑞浪高校を選んだ理由は何ですか？」  
⇒生徒「姉がこの学校の卒業で、姉から瑞浪高校の良さが伝わってきた。また、少人数指導で、専門的な知識や技術が学べる点に魅力を感じた。」  
生徒「私は、少人数指導と多様な選択科目に魅力を感じた。大学に進学し、医療関係の仕事に就きたいと考えている。」  
委員「少人数指導の良さは具体的になんですか？」  
⇒生徒「先生と生徒の距離感が近くなり、わからないところを先生に聞きやすい雰囲気がある。」  
「生徒同士で教え合ったり、少人数でグループ学習ができ、主体的に学びやすい。」

## 6 会議のまとめ

- ・ 昨年に続き、学校評価アンケートでは、保護者および生徒から概ね高い評価を得ている。特に教職員に対して肯定的な評価が目立ち、教職員と生徒との関係が良好であると考えられる。
- ・ 保護者の学校評価アンケートからは「わからない」という回答が多かったが、これはアンケートの質問項目の内容について保護者が実際に知る機会が少ないためである。今後は、HP やすぐメール、通信等を通してより一層学校の情報を発信していく必要がある。
- ・ 今年初めて実施した委員と生徒との懇談はとても有意義であった。生徒の様の声を聴くことができ、生徒理解や学校理解につながった。
- ・ 授業参観や会議での話から瑞浪高校の様子がよくわかった。アンケートの結果通り、生徒たちがこの瑞浪高校を肯定的に捉えている様子が伝わってきた。
- ・ 少人数授業やコース別選択授業は教員と生徒の距離も近くなり、わからないところを丁寧にサポートしてもらえる態勢が整っていると感じた。中学校から生徒を送り出している立場としても安心感があった。